

資 料

(中国) 体育系大学学長フォーラムにおける講演抄録

—中国国内外体育大学の改革と発展の戦略・吉林体育学院 50 周年記念式典—

周 莉 紅

(CHINA) The summary of the lectures at the Forum of President of Universities and Institutes of Physical Education

The President Forum on Strategies for the Reform and Development of Domestic and Abroad Universities and Institutes of Physical Education/ The 50th Anniversary of Jilin Institute of P.E  
ZHOU Lihong

On September 20, 2008, a forum of president of universities and institutes of P.E, was grandly held in the Linhe campus of Jilin institute of P.E. This forum was entitled "the president forum on strategies for the reform and development of domestic and foreign universities and institutes of physical education". There were 13 presidents, who came from universities and institutes of P.E in China, South Korea and Japan, and gave lectures at this forum. From Sendai University, Japan, the President Hozawa was invited to give a lecture then. On this occasion, I participated in this forum as an interpreter. This report is the summary of Chinese lectures at the forum. The one is from Prof. Yang Hua's, the president of Beijing Sport University, which is under the direct control of the Chinese Sports Head Office, and the other is from Prof. Song Jixing's, the president of Jilin institute of P.E, which was an host organization of this forum. This report refers to the movement of the reform and development of universities and institutes of P.E in China before and after the 2008 Beijing Olympic, and is also expected to contribute to the future exchange between Chinese and Japanese universities and institutes of P.E.

1. 「“二つの戦略”を使命とし、体育系大学の改革と発展を加速する」  
(講演者 北京体育大学長 楊 樺)

中国は、北京オリンピックの主催に成功を取  
め、大きな実績を取得した後、その体育事業は、  
より挑戦的、より深い改革と発展が期待される、  
という斬新な局面に直面することになった。体  
育系大学は、中国の体育事業の知力と人材のバ  
ンクの構成部分として、いかに新しい情勢に適  
応し、そして改革・創造を行い、持続的發展を

図って、社会に寄与するかが、当面の一大課題  
である。

この様な新しい時期に置かれている中国の体  
育系大学は、全体から見ると、次の問題点を抱  
えている。それは、これまでの体育教育を主と  
する大学運営のモデルの古さであり、それは、  
競技スポーツの“現場”に基本的に立ち入って  
おらず、理論的研究や科学技術の開発において  
立ち遅れている状況、そして、金メダルを取得  
する方法の欠落、すなわち、“オリンピックで  
栄光を勝取る戦略”に貢献する力が不足してい

たことである。また、人材育成の規模と質は、社会が体育人材へのニーズに応えられず、“全民健康戦略”への推進をさらに強化する必要があるなどの面も挙げられる。一方、このような厳しい問題点に直面すると同時に、2008年北京オリンピックは、体育系大学の改革と発展に次のような大きなチャンスを与えた。それは、国が、体育系大学の教育・人材・研究等の総合的な優位性を発揮するために、体育系大学への経済的・人的な支援を拡大したこと、また、大衆スポーツへの熱気が前例のない程に高まり、より盛んになることで、スポーツ関連の人材に対する社会的ニーズも増えることになるはずである。

ところで、これまで欧米諸国の体育系大学の改革発展の歩みから次のようなことが明らかにされている。前世紀7、80年代には、社会経済の変化が体育大学の発展に大きな影響を与え、体育教員の養成を中心とする、伝統的な教育システムは、すでに古いものと見られていた。諸外国の体育大学は、次々と総合的専門人材の育成へのモデルチェンジに着手し、しかも、社会のニーズ及び教育改革に基づき、学科の再編成と課程の改正を柔軟に行ってきた。健康・運動・レクリエーションなどの内容も徐々に体育大学の教育カリキュラムに導入され、文・理・工科課程を融合し、自然科学、社会科学と技術科学の学際化が重視されるようになった。“厚い基礎と広い間口”のような人材育成のモデルは、各国体育事業の発展及び社会の各レベルの体育人材へのニーズを満たすために貢献してきた。同時に、国外一流の体育大学を見渡すと、フランスやロシア及びドイツの体育大学などで、競技スポーツ分野で優れた実績を得たのは、すべて教育、研究、競技の“三者の有機的な結合”という大学運営モデルと密接な関係があることが明らかされている。

ところが、中国の体育大学の改革と発展が直面しているのは、単なる専門構造と課程体系に関する教育指導の改革だけではなく、より重要なのは、戦略目標を定めることである。つまり、

“全民健康戦略”と“オリンピックで栄光を勝取る戦略”との協調的発展の絶好のチャンスを逃さないようにすること、そして大学運営構想の転換及び運営方向の調整を行って、国家戦略及び社会における人材育成のニーズに応えることである。また、中国の体育政策・諮問のシンクタンク及び体育理論創造の孵化器としての役割を果たし、人材を育成し、経験を重ね、モデル化して、成果を生み出すことを通して、国及び社会から評価してもらうことである。

現時点における中国の体育大学の改革及び発展は、高等教育と体育の発展の道に従うと同時に、国家戦略である“全民健康”と“オリンピックで栄光を勝取る”という二つの戦略に基づいて、次の三点から着手すべきだと考えられる。第一に、研究、競技の潜在力を発掘し、体育系大学の優位性を発揮し、“オリンピックで栄光を勝取る戦略”に貢献する力を強めることである。北京体育大学は、国の重点大学である立場の優位性を生かし、総合的な役割を果たして、オリンピックに関する各種の研究プロジェクトや競技力向上のプロジェクトなどを担当しなければならない。第二に、教育改革を推進し、多種、多様な人材の育成、“全民健康戦略”への支持力をより一段と高めることである。北京体育大学の場合には、自主的に国の経済システムに基づき、そのうえ、体育事業及び体育産業の発展と人材マーケットのニーズに適応し、大学運営目標の位置づけと発展目標を密接に図って、学部における体育学に関するすべての専攻を開設した。また、体育学を中心として、人文学、経営学、理学などが結び合うことで、学科間におけるバランスを考え、専攻構造の合理性を持つことにより、さらに体育学の特色が鮮明になり、総合的な専攻体系が構築されることである。これによって、我が国の社会の発展及び体育事業の発展のために、総合的資質を持つ、各種体育領域の専門的人材のニーズを満たすよう努めていくことである。第三に、“二つの戦略”に貢献することを通して、体育大学の特色を創り出すことである。大学の独自性は、大学の存続と

発展の基盤である。体育系大学は、独自の強みや特色を発揮することで、高等教育の厳しい競争の中で有利な立場に立ち、体育事業のより高次な、より広範囲な発展のニーズに適応できるからである。北京体育大学の場合には、半世紀にわたっての大学運営の歴史を継承し、また“二つの戦略”を支援・貢献してきた。体育高等教育を代表する教育・研究・競技の三者の有機的結合という大学運営のモデルとシステムを引き続き探索・創造することに努めることである。こうして、教育を基礎に、研究を原動力とし、競技力向上に資するという大学運営の特色を創ることである。この様な運営の特色は、長年の大学運営において、すでに教育の質の向上、人材育成において、著しい成果をあげている。北京体育大学は、国の“211プロジェクト”において重点的に設置される、体育学科グレード1という国の重点学科を持つ唯一の体育系大学であり、また、最初のオリンピック金メダリストを送り出した大学、そして、中国的な特色を持つ体育高等専門分野における教育システム及び体育大学の発展モデルを創出した大学である。

## 2. 「吉林体育学院の精神を論じる—創新、執着、善治、共贏—」 (講演者 吉林体育学院長 宋 繼新)

精神とは、人の魂であり、学院の根本をなすものである。吉林体育学院の精神は、幾代の人々が心血を注いで蓄積してきた“創新、執着、善治、共贏”という概念である。これは、わが学院の“遺伝子”であり、学院の無形資産であり、学院運営のソフト面での実力であり、学院が生き残るための“根本”なのである。

「創新」とは、人間の天性であり、学院の特色でもある。これは、大学が社会の進歩を“リード”するための源で、大学の生命力をアピールする鍵である。わが学院は、創意する伝統を持つ大学である。まず、大学運営の思想は、本学「創新」の始まりである。学院が設置された当初の先人たちは、“才徳兼備”の体育人材の育成を

提唱し、それに続く人たちは、その精神を受け継ぎ、“徳厚博学、育人奪標”という学院運営の理念を定め、実践してきた。それは、幾度も国と省・市の体育行政部門に採択された。この学院運営システムの「創新」は、本学の発展のかなめである。1958年、学院は、国内で“教育・研究・競技”三者の有機的結合という学院の運営モデルを初めて創り、それを引き継ぎ、さらに“教育・研究・競技・企業”四者の有機的結合という大学運営のモデルを創った。その成果は、国家体育総局から“地方体育大学改革成功の模範例”として賞賛された。教育内容の「創新」は、本学の特色のある人材を育成する基礎である。今世紀の初め、本学は、国内で《人文と科学とを融合する体育専攻における教養教育課程の新体系の建設》と《学生の徳育基地建設の強化》という課題を真っ先に探り、また、“種目指導”から“種目教育”へ、“技能の伝習”から“文化の伝承”へ、そして倫理道德教育の面においての“虚”から“実”への転換などを提言しました。その改革の成果は、2005年以来、何回も国の教育省の賞賛を受け、学生に係る事業も、中央宣伝部及び省内外のメディアから何度も賞賛された。また、一連のオリジナル著作が公開出版され、その中には吉林体育学院人(以下「体院人」と略称)の“創新遺伝子”が組み込まれている。また、2008年、本学から32本の論文が“第29回オリンピック科学研究大会”で入選し、その成果は、本学の教育改革がすでに国際的水準に近づいていることを証明し、また、世界にわが体院人の「創新」の精神を重ねてアピールしたことになった。

「執着」とは、一種の態度、一種の人文的精神、一種の政治的責任感のことである。本学は、1958年に創設されてから、1982年の復建、そして、今日に至るまで、大変な辛酸と苦難をなめて、幾度も不遇に遭った。特に、今世紀に入ってから、体院人は、修士課程申請に成功し、教育省の評価を受け、国家社会科学研究基地、国家重要氷雪実験室や省レベル重点学科開設などの申請、学風の形成や教育の質の向上、更に臨

河キャンパスの買収、建設などを経て、その間、また幾代もの人たちの絶え間なく努力する執着精神があって、はじめて今日の実りある成果の獲得に至った。こうして、50年代以来、本学は、波のような起伏を幾度も経験し、その間、苦しみもあり、喜びもあり、成功もあり、失敗もあった。しかし、体院人は、希望の火を一度も絶やすことなく、執着の精神を持って、たくさんの困難を乗り越えて、何度もの新しい曙光を迎えることができたのである。

「善治」(good governance)とは、公共利益の最大化、博愛という現代的な人間本位の経営の限界への追求のことであり、また、本学が堅持する“徳法兼治”の態度のことであり、50年代以来、学院内部における教員代表委員会制度は、徐々に完備され、各事業は、政務公開を厳しく実施し、切実に民主化の“陽光政策”を強化してきた。《吉林体育学院学則》が施行されることにより、学院の運営が標準化され、軌道に乗せることができたのである。

「共贏」(きょうえい)とは、社会の生存と発展への追求のことであり、国が調和的社会を構築する目標であり、また本学が変化しつつ生存環境に適応するための立脚点になるものである。本学が「共贏」を追求するのは、外部力の支援、発展を加速させる触媒を探し出すためであった。前世紀の末頃、学院は、国内で真っ先に“教、研、競、産”四者の有機的結合という大学運営システムを構築し、実践した。それは、高等教育機関、トップレベル競技スポーツ・チーム、研究機構、企業クラブの四者連携による競技スポーツ人材を育成する新しいモデルを構築したのである。これは、社会資源を生かして、いろいろな方面から援助・協力を得ようという大学運営の考えを創造したことになる。国のスポーツの社会化政策を推進するために真っ先に提唱したものである。この改革は、国のトップレベル選手の育成における資金不足問題の解決に役に立ち、また選手の総合的資質を高め、彼らの“成人一競技一就職”という難問の解決に役立ったのである。また、これは、利国、利

民、利学のために、国が高等教育改革において提唱している“産、学、研”の三者間の有機的結合の発展方向と一致し、また、本学院の運営の特色をアピールすることであり、将来の改革と発展の土台を創ってきたことである。

「創新」は、吉林体育学院が大学としての前提、「執着」は、体院人の人文的精神、「善治」は、人間味のある経営のあり方、「共贏」は、学院が発展を求める高尚な情操である。この四者は、相互に補完し合うことで、吉体精神が構築されることになる。50年間のあいだ、本学の運営システムを形成する過程から、我々は次の教訓を得ることができたのである。つまり、ハード面での建設は、より効果が出やすいものであるが、しかし、ソフト面での建設は、時間と心血をかけて蓄積、昇華することであり、着実に行わなければいけないものである。これは、大学の重要なインフラ整備であり、大学のインフラ整備は、単なる土木工事だけではなく、更に文化の創造・維持・発展させる戦略的思考の模索が必要とされるということである。

## 文献資料

- 「中外体育学院改革発展戦略院院長論壇」(吉林体育学院50周年院慶/中国・長春・2008)
- 「The President Forum on Strategies for the Reform and Development of Home and Abroad Universities and Institutes of Physical Education」  
(The 50<sup>th</sup> Anniversary of Jilin Institute of P.E./Changchun.China.2008)